

2008 年度 小委員会活動成果報告

(2009 年 2 月 8 日作成)

小委員会名	熱環境シミュレーション小委員会	
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (熱環境運営委員会)	
設置期間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・熱環境シミュレーションの最新動向に関する調査 ・熱環境シミュレーションに関わるプログラムやデータの収集整理 ・Web: "BUILDING SIMULATION RESOURCES"の充実・拡充 ・収集したプログラムを CD-ROM 付書籍として出版する。 	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無: 有 赤司泰義(九州大学)・石野久彌(首都大学東京)・猪岡達夫(中部大学)・宇田川光弘(工学院大学)・内海康雄(宮城工業高専)・永村一雄(大阪市立大学)・尾崎明仁(京都府立大学)・久保隆太郎(熊本大学)・酒井孝司(明治大学)・武田仁(東京理科大学)・永田明寛(首都大学東京)・林徹夫(九州大学)・藤井晴行(東京工業大学)・松本真一(秋田県立大学)・吉田治典(京都大学)	
設置 WG (WG 名: 目的)	教育用熱環境シミュレーションソフトウェア整備 WG(建築デザインや建築環境工学を勉強する学生やエンジニアの卵が建物の構成と熱環境のありようの関係について簡便に確認できる教育用ソフトウェアを整備する)	
2008 年度予算	170,000 円	ホームページ公開の有: 委員会 HP アドレス: http://news-sv.ajj.or.jp/kankyos12/

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 伝熱小委員会と合同の研究会において最新の研究に関して討議ができた。 2. ソフトウェア整備 WG を設置し、教育用ソフトの開発を進められた。 3. 来年度熱シンポジウムを担当することになりその準備を行った。
委員会活動の問題点・課題	

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共

通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

2008 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	B
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>(1) 伝熱小委員会との合同小委員会（毎年度 4 回）で、毎回 1～3 件の話題提供を積極的に行った。</p> <p>(2) 第 37 回熱シンポジウム（2007 年 12 月開催）のセッション 5「性能評価としてのシミュレーション」（5 題）を担当した。</p> <p>(3) ホームページで熱環境シミュレーションに関わるプログラムの収集・公開を前身の伝熱 WG 熱シミュレーション資源 SWG から引き継いでいるが、更新が停滞しており積極的に登録数を増やす努力が必要とされいた。本小委員会では、新しくプログラム開発自体を行う教育用熱環境シミュレーションソフトウェア整備 WG を設置し、JAVA, EXCEL, Web アプリ等の開発を進めており、来年度の熱シンポジウムで公開予定である。</p> <p>(4) 第 39 回熱シンポジウム（2009 年 10 月 30 日、31 日開催予定）を担当しており、その準備を進めている。</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。

